

東川徳治氏検討一斑—江戸恵子氏「楊舟 東川徳治年譜考」補遺—（五訂稿）

—日本統治下台湾法制史の一齣—

（令和 4（2022）年 8 月 2 日（火）現在）

〔補正経緯〕

HP 初出: 平成 22（2010）年 12 月 8 日（水）初稿作成

平成 26（2014）年 11 月 23 日（日）改訂稿作成

令和元（2019）年 6 月 18 日（火）再訂稿作成

（末尾に「(参考)」を追加した。）

令和 3（2021）年 11 月 21 日（日）三訂稿作成

（レイアウトの全面変更、文献追加）

令和 4（2022）年 4 月 1 日（金）四訂稿作成

（一部補正の上、『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録【参考篇】【附篇】—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十五輯）—』（令和 4（2022）年 4 月 1 日刊）に収録した。）

令和 4（2022）年 8 月 2 日（火）五訂稿作成

（一部修正、追加）

〔目 次〕

1 はじめに	1
2 『台湾警察協会雑誌』、『台法月報』掲載分	3
3 東川徳治氏の東北帝大離任時の状況	4
（参考 1）	5
（参考 2）	6
【附録】本 HP 別稿日本統治下台湾警察史関係抄	6

1 はじめに

（本稿は、平成 12（2000）年 1 月 5 日作成の旧稿であり、遺憾ながら、その後ほとんど補正できぬまま、現在に至っている。他日、機会を得て改訂できればと考えている。）

周知のように、東川徳治氏（1870～1938）¹は、我が国における中国法制史の開拓者の

¹ HP「ケペル先生のブログ」中「東川徳治と『典海』」2007年11月9日（金）

〈http://shisly.cocolog-nifty.com/blog/2007/11/post_7709.html〉（追記）ただし、令和 3（2021）年 11 月 21 日現在では見ることができないようである。（令和 3 年 11 月 21 日追加）

（追記）（後掲（参考 1）と重複。令和 4（2022）年 8 月 2 日（火）追加）

一人であるが、明治 37 (1904) 年 6 月に、梅謙次郎博士 (1860~1910) の推薦により、臨時台湾旧慣調査会の法制部に奉職し、明治 39 (1906) 年まで、調査員として、支那法制に関する事項の実施調査をし、次いで、同年には、京都帝国大学法科大学内に設置の調査会行政部に転任し、『清国行政法』編纂の補助委員となっており、日本統治下台湾法制史検討上においても、大きな地歩を占めておられる。

同氏の生涯及び著作については、江戸恵子氏²の御力作「楊舟 東川徳治年譜考」³『法学志林』第 92 巻第 4 号 (平成 3 年 3 月 20 日刊) 39~71 頁に詳しいが、平成 10 (1998) 年、中島利郎教授 (1947~) により、「日本統治期台湾重要雑誌総目録シリーズ」第二編として、『台湾警察協会雑誌』『台湾警察時報』総目録 (中島利郎・林原文子編、緑蔭書房、平成 10 年 8 月 25 日刊) が、次いで、平成 11 (1999) 年、同第三編として、『台法月報』総目録 (中島利郎・宋宜静編、緑蔭書房、平成 11 年 9 月 25 日刊) が出されたので、改めて、戴炎輝 (1909~1992)⁴、東方孝義 (1889~1957)⁵、鷺巣敦哉 (1896~19426)⁶ 三氏の著作をたしかめていたところ、上記諸雑誌にも東川氏の著作が多々存在することに気付いた。これらは、いずれも上記江戸氏のものには収録されていないので、ここに、補遺として書き出してみた。ただし、もとより現物は見えていないので、異同については確認の仕様がな。御諒恕賜われれば幸いである。

なお、平成 11 (1911) 年、大空社より、「アジア学叢書」第 61 巻として、東川徳治撰『支那法制史研究』 (大正 13 年刊) が復刻 (平成 11 年 2 月刊)⁷され、その参考資料として江戸氏「楊舟 東川徳治年譜考」 (新訂 (平 7 訂)) が附されているとのことであるが、遺憾ながら未見である。あるいは、ここで訂正追加がなされているかも知れないことをお

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%B1%E5%B7%9D%E5%BE%B3%E6%B2%BB>

² 岡孝・江戸恵子編「梅謙次郎著書及び論文目録 その書誌学的研究 (覚書)」『法学志林』第 82 巻第 3・4 号 (昭和 55 年 3 月刊) 参照。 (<http://ci.nii.ac.jp/ncid/BN08649786>)

³ ([http://repo.lib.hosei.ac.jp/bitstream/10114/1979/1/hogs_92_\(4\)_edo.pdf](http://repo.lib.hosei.ac.jp/bitstream/10114/1979/1/hogs_92_(4)_edo.pdf))

⁴ 本 HP 別稿「戴炎輝博士著作目録」参照。

https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Tai_Yen-hui001.pdf

⁵ 本 HP 別稿「東方孝義・鷺巣敦哉両氏共編『警察語学試験問題集及解答集』 (警察試験叢書第四編、自己出版、昭和 10 年 11 月 30 日刊) の再発見—日本統治下台湾警察語学教養の一齣—」参照。

<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/higashikata001.pdf>

⁶ 本 HP 別稿「鷺巣敦哉氏著作目録抄—日本統治下台湾警察史の一齣—」、

<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu002.pdf>

本 HP 別稿「鷺巣敦哉と『台湾総督府警察沿革誌』の編纂について—日本統治下台湾警察史の一齣—」

<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu001.pdf> 各参照。

(平成 26 年 11 月 23 日一部補正)

⁷ 『支那法制史研究』: (<http://www.ozorasha.co.jp/ajia008.html>)、

<http://www.amazon.co.jp/%E6%94%AF%E9%82%A3%E6%B3%95%E5%88%B6%E5%8F%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6-%E3%82%A2%E3%82%B8%E3%82%A2%E5%AD%A6%E5%8F%A2%E6%9B%B8-%E6%9D%B1%E5%B7%9D-%E5%BE%B3%E6%B2%BB/dp/4756806015> 各参照。(平成 26 年 11 月 23 日一部補正)

断りしておく。加えて、東川氏につき、『中国法制大辞典』（原題『増訂支那法制大辞典』〈昭和8年刊〉。燎原・昭和54年6月復刻）中の山根幸夫教授（1921～（2005））「復刻にあたって」、同「東川徳治と『典海』編纂の経緯」（『汲古』第27号、汲古書院、平成7年6月刊）等参照⁸。

本稿作成に当たり、上記両目録を御恵投下された中島教授の御厚情に深甚の謝意を表するものである。

2 『台湾警察協会雑誌』、『台法月報』掲載分

① 『台湾警察協会雑誌』掲載分

大正10（1921）年

- ・常平蔵 第44号（大正10年1月25日）

（编者註：上記江戸氏のものによると、大正10年の『法学志林』第23巻第1号に「常平倉」〈マ〉なる論稿が掲載されている由。）

② 『台法月報』掲載分

大正6（1917）年

- ・治台必告録抄訳（肩書に旧慣調査会囑託とある。） 第11巻第6号（大正6年6月23日刊）
- ・治台必告録（肩書同） 第11巻第8号（大正6年8月20日刊）
- ・同（肩書同） 第11巻第9号（大正6年9月20日刊）
- ・同（肩書なし） 第11巻第11号（大正6年11月20日刊）

大正7（1918）年

- ・支那法系に属する邦国婚姻の意義を論じて台湾法官の一考に供す（肩書なし、以下同じ） 第12巻第1号（大正7年1月20日刊）
- ・治台必告録 第12巻第2号（大正7年2月20日刊）
- ・同 第12巻第3号（大正7年3月20日刊）
- ・同 第12巻第5号（大正7年5月20日刊）
- ・台湾人の宗教観念について 第12巻第8号（大正7年8月20日刊）
- ・治台必告録〈マ〉 第12巻第9号（大正7年9月23日刊）

大正8（1919）年

- ・儒教と宗教の異同 第13巻第2号（大正8年2月24日刊）
- ・同 第13巻第3号（大正8年3月20日刊）

昭和3（1928）年

- ・支那法制史論叙・目次（肩書補助委員） 第22巻第6号（昭和3年6月1日刊）

⁸ その後のものとして、赤城美恵子「東洋法制史学の生成」『法制史研究 70（2020）』（令和3（2021）年3月30日刊）148、153、160～161頁参照。（令和3（2021）年11月21日追加）

- ・校訂 支那法制史論（肩書なし、以下同じ） 第22巻第7号（昭和3年7月1日刊）
- ・支那法制史論 第22巻第8号（昭和3年8月1日刊）
- ・同 第22巻第9号（昭和3年9月1日刊）
- ・同 第22巻第10号（昭和3年10月1日刊）
- ・校訂 支那法制史論 第22巻第11号（昭和3年11月1日刊）

昭和4（1929）年

- ・校訂 支那法制史論 第23巻第1号（昭和4年1月1日刊）
- ・同 第23巻第3号（昭和4年3月1日刊）
- ・同 第23巻第6号（昭和4年6月1日刊）
- ・同 第23巻第8号（昭和4年8月1日刊）
- ・同 第23巻第12号（昭和4年12月1日刊）

昭和5（1930）年

- ・校訂 支那法制史論 第24巻第1号（昭和5年1月1日刊）
- ・同 第24巻第2号（昭和5年2月1日刊）
- ・同 第24巻第3号（昭和5年3月1日刊）
- ・同 第24巻第6号（昭和5年6月1日刊）
- ・同 第24巻第7号（昭和5年7月1日刊）
- ・同 第24巻第9号（昭和5年9月1日刊）
- ・同 第24巻第11号（昭和5年11月1日刊）
- ・同 第24巻第12号（昭和5年12月1日刊）

昭和6（1931）年

- ・校訂 支那法制史論 第25巻第1号（昭和6年1月1日刊）
- ・同 第25巻第9号（昭和6年9月14日刊）
- ・同 第25巻第10号（昭和6年10月14日刊）

昭和7（1932）年

- ・校訂 支那法制史論 第26巻第1号（昭和7年1月1日刊）
- ・同 第26巻第2号（昭和7年2月8日刊）
- ・同 第26巻第4号（昭和7年4月5日刊）
- ・同 第26巻第8号（昭和7年8月5日刊）

（註：上記江戸氏のものによると、東川氏は、大正4（1915）年に、臨時台湾旧慣調査会より、支那法制調査会報告として『支那法制史論』なる著書を刊行している。なお、昭和5（1930）年には『典海』、昭和8（1933）年には『増訂支那法制大辞典』が刊行されている。）

3 東川徳治氏の東北帝大離任時の状況

上記江戸氏作成年譜中東川氏の東北帝大離任時の状況がやや不明のことから、平成11（1999）年10月に小山貞夫先生におたずねしたところ、当時の『東北帝国大学学報』の御示教に与ったので、以下、これを参考までに誌しておくこととする。また、先生は、昭

和 7（1932）年に東川氏と入れ替わって同大学図書館に採用されたという矢島玄亮氏（この時点で 96 歳、（1903～2001、東北大学「矢島文庫」⁹ 旧蔵者）にも、同大百年史編纂室小野和夫氏を通して、いろいろお聞きして下さった。当時の小山先生の御高配に対しては、ただただ感激のほかない。謹んで厚く御礼申し上げる次第である。

1932（昭和 7 壬申）62 歳

○昭和 7 年 1 月 31 日（図）事務嘱託 東川徳治（図：「図書館」のことか。）

事務嘱託ヲ解ク

東北帝国大学講師ヲ嘱託ス

為手当年額千六百八拾圓ヲ給ス

法文学部勤務

（『東北帝国大学学報』第 146 号による。）

○昭和 7 年 3 月 10 日

願ニ依リ講師嘱託ヲ解ク（法文）講師○東川徳治

（『東北帝国大学学報』第 147 号による。）

○昭和 7 年 11 月 1 日

嘱託 東川徳治

支那法制史書目調査ノ嘱託ヲ解ク

（『東北帝国大学学報』第 155 号による。）

（参考 1）（令和元（2019）年 6 月 18 日追加、令和 3（2021）年 11 月 21 日一部補正）

* 東川徳治:

< <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%B1%E5%B7%9D%E5%BE%B3%E6%B2%BB> >

* 平成 31（2019）年 4 月及び令和元（2019）年 6 月に於ける赤城美恵子氏の下記報告中で東川徳治氏についても詳しく取り上げられていると仄聞する。御論考公表が待たれるところである。（追記 末尾参照。）

・赤城美恵子（報告）「東洋法制史学の生成」（法制史学会東京部会第 274 回例会「テーマ：日本における法史研究の歴史」（下記法制史学会第 71 回総会〔ミニ・シンポジウム〕準備会との由。平成 31 年 4 月 13 日午後（土）、於東京大学東洋文化研究所大会議室）の一として）

< <https://www.jalha.org/tokyo/> >

・赤城美恵子（報告）「東洋法制史学の生成」（法制史学会第 71 回総会〔ミニシンポジウム〕「日本における法史研究の歴史」（令和元（2019）年 6 月 8 日（土）午後、於神戸学

⁹ 矢島文庫:

< http://tksosa.dijtokyo.org/?page=collection_detail.php&p_id=468&lang=ja >

院大学ポートアイランドキャンパス。田口正樹、神野潔、赤城美恵子、藤野奈津子、松沢裕作、大中有信各氏) の一として)

〈<https://www.jalha.org/soukai2/>〉

⇒赤城美恵子「東洋法制史学の生成」『法制史研究 70 (2020)』(令和 3 (2021) 年 3 月 30 日刊) 148~178 頁 (令和 3 (2021) 年 11 月 21 日追加)

(参考 2) (令和 4 (2022) 年 4 月 1 日追加)

国立国会図書館「次世代デジタルライブラリー」で再検索の要あり。西英昭先生の御示教に拠る。厚く御礼申し上げます。

〈<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>〉

【附録】

本 HP 別稿日本統治下台湾警察史関係抄

- ・「法制史学者著作目録選」中「日本統治下台湾警察史コーナー」参照 (下記はその一部)

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉

- ・台湾総督府警察官及司獄官練習所覚書

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/renshujo.pdf>〉

- ・旧台湾警察諸警友会の回顧

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/keiyukai.pdf>〉

- ・明治 35 (1902) 年台北刊行の『警察監獄学雑誌』検討一斑

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kangokugaku.pdf>〉

- ・東川徳治氏検討一斑—江戸恵子氏「楊舟 東川徳治年譜考」補遺—(本稿)

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/higashikawa.pdf>〉

- ・姉齒松平判官(1885~1941)関係資料抄—日本統治下台湾法制史の一齣—

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/aneha.pdf>〉

- ・『台湾警察協会雑誌』第 75 号 (大正 12 (1923) 年 8 月 25 日刊) の再発見について (—『台湾警察協会雑誌』『台湾警察時報』総目録』補遺—日本統治下台湾警察史の一齣—

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/saihakken.pdf>〉

- ・中島利郎教授編『台湾地方行政』総目・人名索引[試行本]』(緑蔭書房、平成 21 年 9 月 30 日刊)の刊行について[紹介]

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakajima001.pdf>〉

- ・リゼンドル(ル・ジャンドル)について—台湾出兵、十五世市村羽左衛門・関屋敏子によせて—

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/legendre.pdf>〉

目黒五郎・江延遠共著『現行保甲制度叢書』(昭和 10 年初版刊)自序(再掲)—日本統治下台湾保甲制度検討の一として—

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/meguro.pdf>〉

・日本統治下台湾史関係写真集一斑一片倉佳史氏『古写真が語る 台湾 日本統治時代の50年 1895-1945』(祥伝社、平成27年5月10日刊)刊行に寄せて—
<<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/katakura.pdf>>

(了)